

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375300262
事業所名	グループホームはなえくぼ扶桑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域での認知度は高く、利用者とホームが、地域の一員・一世帯として交流できる日常がある。コロナ禍以前のように、地域を交えたり家族を呼んだりのホーム行事開催までは難しく、今後の楽しみとなっている。まずはできることから、地域から声がかかったりカフェ利用、地域の商店の利用等、利用者の楽しみにつながる交流から始めている。運営推進会議で、地域情報を得て、参加できそうなことを模索している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	利用者家族、地域代表の民生委員と女性の会、行政担当と地域包括支援センター等、毎回到ぎやかな顔ぶれが集い、ホームの運営を話し合っている。ホームの運営報告、活動報告、ホームの困りごと、地域への相談等、議題は多岐にわたり、活発な意見交換の機会となっている。聞き取った内容は、職員周知で、運営に反映させている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	町の担当部署とは、ホームの運営にかかわる相談・報告を通じ、適切な連携に努めている。ホームの運営推進会議には、町の担当者、地域包括支援センター双方が参加し、行政情報の提供を得るとともに、ホームの実情を報告している。地域包括支援センターとは、地域高齢者の問題解決、困りごと相談等で協働している。また、地域包括支援センター主催の家族介護の交流会に参加し、ホーム紹介の機会を得られたり、利用者紹介を得たりと、密な連携がある。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	利用者家族との信頼関係は厚く、忌憚なく話し合える関係性を維持している。家族側からも、相談したい事は直接「時間を作ってほしい」等の要望がある。以前、運営推進会議でホームの防災の話をした折、家族から利用者の安否確認の方法に心配の声が上がった。それをきっかけに、SNS導入し、リアルタイムの情報提供を可能にし、ますますコミュニケーションが密になったという効果も生まれている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
総合評価	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
総合評価	◎	○	◎	○	◎						